

新年度が始まりました。

「ふれあいの郷」敷地内に春の植物が皆さんをお出迎えしていますよ。今年度もよろしくお願ひ申し上げます。

チューリップ



北東側花壇



南西側花壇

このチューリップは八坂北の有志の皆さんが育てていただいています

ツバキ

椿の花はごそっと落ちるので、競馬の馬の名前には忌み嫌われているようです。(落馬をイメージする) 同様に切腹(首が落ちる)を思い浮かべるので武家屋敷には椿は植栽しないという話がありますが、これは全くの都市伝説です。



ウメ

花見といたら遡ること奈良時代。そして、その主役は「サクラ」でなく、「ウメ」だそうですよ。



平安時代にサクラブームが到来、江戸時代にサクラの花見が定着したということです。

スズメノエンドウ



ナノハナ



スイセン

ニラの葉と間違って食べてしまう中毒事故が花の終わった5月ころから新聞を賑わせます。皆さん、ご注意を。



西洋タンポポ



総苞片（そうほうへん）⇒
のところが反り返っている
ので北部周辺のタンポポは
西洋タンポポです

シレネ・ピンクパンサー



ピンクパンサーと言えば、1963年のアメリカ映画『ピンクの豹』を第1作とする映画シリーズ。「クルーザー警部」、「アニメキャラクターのピンクパンサー」を思い浮かべますが
シレネ・ピンクパンサーはナデシコ科の多年草。春から初夏にかけてピンクの花をたくさん咲かせます。

スミレ

「スミレ」の名はその花の形状が墨入れ（墨壺）を思わせることによる、という説を牧野富太郎が唱え、牧野の著名さもあって広く一般に流布しているが、定説とは言えないようです。



ツクシ



ツクシ誰の子
スギナの子～と
いう唄を思い浮
かべますが、
実際は、親子
関係というわけ
ではありません。

ナガミヒナゲシ



ナガミヒナゲシ ひなげしといえは、アグネスチャンさんの「ひ～なげし～の花が～」という歌を連想しますよね。輸入穀物などに紛れて渡来したようです。要注意外来生物に指定されていますが、花が綺麗ということでなかなか駆除出来ずにいるようです。

アカメガシワ



アカメガシワの名前の由来は、新芽が赤くて、葉がカシワのように大きくなることから命名されたようです。

さて、北部交流センターのアカメガシワ、どこに生えていると思いますか？なんと、上の駐輪場から、グラウンドの石垣にある排水溝から芽を出して成長しているのです。